



神々の 衣服



川崎ゆきお

「高天原でスサノウが暴れて、姉のアマテラスは天の岩戸に隠れるでしょ」

「はいはい、古事記ですね。突っ込みどころ満載です。あなたもそうですか」

「そうです」

「では、どのような」

「はい、田を荒らしたり、機織りをメチャクチャにしたり」

「えっ、そんなこと書かれてましたか」

「読んでませんが、聞いた話です」

「はいはい、それが何か」

「高天原ではもう田圃があったり、機織りもあって、服なんかも作っていたんですが、その前はどうか」

「はあ？」

「だから、最初から稲作なんですか。その前に縄文時代があったような気がするし、石器時代とかも。高天原にもそんな時代があったはずなんですが、それは何処に書かれているのですか。聞いたことがありません」

「アマテラスが最初じゃなく、もっと上の世代の神々がいたのですよ」

「知ってます。イザナギとかイザナミでしょ」

「そうです」

「柱が出て来ますねえ。その周りを回って子供を産んだとか」

「そんな話、ありましたか」

「読んだわけじゃないが、聞きました」

「はい、それで」

「どんな柱なのですか。建物の柱なら、もうその時代、家があったんですね。竪穴式じゃなく」

「だから、イザナミ、イザナギの前にも神様がいたのです。その上の世代は、お一人でも、長い」

「でも国産みの神様でしょ。棒か何かでかき混ぜて、淡路島を最初に作った。しかし、建物があったんでしょ。柱が」

「だから、そこはこの地上とは違う世界なのです」

「ああ、天ですか」

「そうです」

「地上はまだドロの海なのに、天では柱がある家があるんですねえ」

「はいはい」

「柱を作るには道具がいるでしょ。家を立てるにも、道具がいる。だから、そういうのが最初はなかったはずなので、一番最初は何もないところから初めて貰わないと」

「いやいや、だから、それは神話なのです。神話が作られた、書かれた時代の読者に分かりやすいように書かれているのです」

「スサノウは海を任かされたのでしょ」

「そんなこと、書かれていましたか」

「聞いた話なので、曖昧ですが。海を任かされていたと聞きました。その後、あまり海での活躍話がないような気がするのですが」

「それは、あなた、間違っって聞いたのでしょ」

「そうですか」

「神様の最初は、素っ裸が妥当かと。最初から服を着ているのでは、その服、誰が作ったのか、デザインは誰がしたのか、なんて考えると、変になります」

「それはただのイメージです」

「天地創造もそうです。何か、既にできあっている上に神様が登場してくるような。だからです。人類がまだ出る前の本当の天地創造時代は、服なんてなかったと思うんですよね」

「はいはい、神話というのは、そういう風に読むものではありません」

「そうなんですか」

「そうです。それは野暮って言うものです」

「野に暮らす、ですか。やはり野から始まるでしょ。人類も。アフリカあたりから、だから、人の形をした神様は、アフリカの人に近いんじゃないですか」

「はいはい、お好きなように想像しなさい」

「そうします」

了